「メディア生活革命を起こそう」

株式会社ポニーキャニオン メディア開発室室長 小林聡氏

質問 ユビキタスの世の中になってきた時に端末はどういう風になっていくのかと考えておりました。私はコンピュータ屋なものですから、オープンな世界にいくのだろうと思っていました。どちらかというとう携帯電話よりはPDAが化けるような端末が有効なのかなと考えていたのです。本日のお話では、「わかりやすさ」の重要性を強調され、また、クローズド・ネットワークだからこそできることがあるという現実を語っておられました。オープンな世界と、クローズドな世界があると思うのですが、その観点からはどう考えればいいのでしょうか。

講師 一長一短だと思います。クローズドな世界だからこそできないことがたくさんあります。幅広く一般にビジネスを広げたい時には、その携帯をもっている人にしかサービスできないという事は難点です。しかし携帯電話はクローズドであるがゆえに課金ができます。ユーザーが特定できますので。国民総背番号制ではないですが、当然、相手を特定できるとお金を徴収しやすいし、サービスも特定の人に「これをあげます」とできるわけです。そういうことが結果としてユーザーの分かりやすさを招き、ユーザーのメリットを生むのです。

残念ながら我々ソフトの側から端末機器を提案することはできません。ハードをつくる側についていくしかないのです、我々がするのは選択していくということです。が、私たちが選択しているというよりは、明らかにユーザーが選択していくのです、勝手に。我々がこれでいこうと決めている間に、ユーザーがばあっと集まってくるのでその方向にどんどん流されざるを得ない。もちろん、我々は、こういう選択肢があると思ったら、開発には取り組みますが、ユーザーの流れに乗れずに、何年たっても芽がでないものもたくさん抱えています。

質問 携帯電話のユーザーの人たちは、ハイビジョン並みの非常に高精細の画像が携帯できるのはいいと思うのでしょうか。

講師 慣れの問題があり後戻りできない宿命にある。今後、ハード・メーカーはどんどんきれいなものをつくっていく。そのたびに我々はやむを得ずついてゆく。新しいコーデックができたといって担当者が頭を抱えてデコードします。ああよかった。きれいなものができた、というそれなりの満足度を味わい、ユーザーにその成果を還元する。そうするともう後には戻れません。ここからはきれいになっていく一方です。あまりにもそのスピードが速すぎてお手柔らかに願いたいと思っているくらいです。